

## 授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第5学年〕

昭島市立拝島第二小学校

学年等	項目	内容
令和5年度 第4学年	学習に関する児童の実態・課題	○順序立てて説明をすることができる児童が増えてきた。 ▲昨年度の学力テストでは、文章や段落の内容を読み取ること・ある程度の長さのある文章を書くこと・既習の漢字の書きとり・理由を挙げて相手に伝えることがより課題である。理由を挙げて相手に伝えるということが出来ず、相手に気持ちが伝わらずにトラブルになってしまうという事例も日常生活で見られる。また、漢字テストでは新出漢字の出来が良いものの既習の漢字(前の学年のものも含める)を間違ってしまう児童も多いため。日記やノートなどを見ても習った漢字を使わずにひらがなで書いている様子も見られる。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年齢に適した本を落ち着いて読むことができるようにさせる。そのことを定着付け、集中力・語彙力を高める。また、国語をはじめとする読解力を身に付けさせる。 ・相手が伝えたい事や書いてある文章の意味を理解できる力を身に付けさせる。 ・新出漢字、既習の漢字ともに定着させる。 ・理由を挙げて相手に自分の考えや気持ちを伝える力を身に付けさせる。 ・ある程度の長さのある文章を書く力を身に付けさせる。
	具体的な授業改善の方策	・朝学習の時間には、学年齢を意識した本を落ち着いて読む時間を確保する。 ・全校朝会や校外学習などの時間には、積極的にメモを取るようにして相手が伝えたいことを短くまとめさせる。(要約して書けるように促し、良くできた児童のメモを手本に見せる。) ・学習後の振り返りで、詳しく書かせる。自分の考えや思いからで良いので長く文章を書く習慣を付ける。 ・漢字の学習では、定期的に復習をし、習熟度を図る時間を取る。また、間違えた漢字を直して振り返る習慣を付ける。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・朝学習の取組から、集中力が身に付いた。 ・各教科で、まとめを自分の言葉で書くことを通して、自分の考えや思いを書く力が付いた。 ・習ったばかりの漢字は書けるが、習った漢字を日頃から積極的に活用しないので定着できていない漢字がある。
令和6年度 第5学年	学習に関する児童の実態・課題	○「読むこと」において、必要な情報を抜き出し、自分の考えをまとめる時に活用しようとしている。 ▲発表する場面において、目的や相手に応じて適切な資料の提示をしたり、論を立てて説明することが苦手な児童が多い。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・意図や目的を明確にし、効果的な構成で文章を書いたり、資料を提示したりする力。
	具体的な授業改善の方策	・相手や目的に応じて適切な資料を選び、提示する力を身に付けさせるために、昭島市民科とのクロスカリキュラムによって、その機会を増やしていく。
	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○意図や目的を明確にし、効果的な構成で文章を書いたり資料を提示したりする力は、個人差はあるが付いてきている。 ▲語彙数を増やしていくことが課題である。
令和7年度 第6学年	学習に関する児童の実態・課題	
	教科で身に付けさせたい資質・能力	
	具体的な授業改善の方策	
	第6学年における児童の達成度と中学1年に向けての課題	

# 授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第5学年〕

昭島市立拝島第二小学校

学年等	項目	内容
令和5年度 第4学年	学習に関する児童の実態・課題	○令和2年度の学力調査では、かけ算に関する問題の正答率は、目標値に対して+6.8ポイント以上取れていた。また、時刻と時間の正答率は、目標値に対して同じか+7.7ポイント取れていた。 ▲令和2年度の学力調査では、特に余りのある除法の答えの確かめ方を説明する記述問題に大きな課題があった。しかし、わり算の説明の記述問題は、目標値に対して同じ位のポイントだった。また、10000より大きい数、わり算の計算は目標値に対して-13.6ポイント以下で大きな課題が見られた。長さ・重さ、円と球の選択問題に関しては、目標値に対して-7.7ポイント以下で課題が見られた。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習事項を用いて場面を式や図、言葉を用いて筋道立てて説明する力を付けるとともに、友達の考えと自分の考えで似ていることや違うことなどを関連付けて考えることができる力。 ・学校で習ったことを日常生活で生かす力。
	具体的な授業改善の方策	・毎時間、既習事項を確認し、今まで習ったことと新しく習うことを繋げて考えさせる習慣をつくる。 ・式の意味を読み取る力を付けるため、立式の根拠を説明する場を設ける。 ・自力解決後、自分の考えを伝える場を設定し、式や図、言葉を使って筋道立てて説明する力を付ける。 ・振り返りの時間を確保し、学んだことを日常生活に生かすにはどうしたら良いか、生かしたことを発表する場を設ける。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・既習事項の確認をすることで、今まで習った内容と、新しく習う内容をつなげて考える力が付いた。 ・立式の根拠を説明する場を設けたことで、自分の考えを言葉・式・図を使って説明できるようになった児童もいるが、まだ難しい児童もいるので引き続き取り組む必要がある。 ・学んだことを自主学習を通して、生活に生かそうとする児童も見られたが、学習したことを生かす姿が見られない児童もいるので引き続き取り組む必要がある。
令和6年度 第5学年	学習に関する児童の実態・課題	○数直線を使う習慣が身に付いてきたことで、正しく立式できる児童が増えた。 ▲自分の考えを筋道立てて説明できる児童が少なく、論理的思考力に課題が見られる。特にわり算(3桁÷2桁)でつまづいている児童が多い。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習事項を用いて、数量の関係・図形の構成要素などを式や図、言葉を使って自分の考えを筋道立てて伝えるとともに、友達の考えと自分の考えを比較関連付けて考えることができる力。
	具体的な授業改善の方策	・習熟度に応じた学習課題を工夫し、自力解決後、小集団で自分の考えを伝え合う場を設定し、学び合いを通して全体で筋道立てて説明する機会を設ける。
	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○既習事項を用いて、数量の関係・図形の構成要素などを式や図、言葉を使って自分の考えを筋道立てて伝える力が付いてきている。 ▲問題文を正しく読み取る力や、正しく計算する力を身に付けていくことが今後の課題である。
令和7年度 第6学年	学習に関する児童の実態・課題	
	教科で身に付けさせたい資質・能力	
	具体的な授業改善の方策	
	第6学年における児童の達成度と中学1年に向けての課題	28